

廃棄物最終処分場の維持管理期間の正確な予測に向けて

キーワード: 研究者と実務者の連携強化、情報の利活用、広域データ収集、分析用Webアプリ

1. 廃棄物処分に係る課題

現在の状況

- リサイクルできない廃棄物は最終処分場に埋め立てられます
- 埋立が終わった処分場は周りへの環境負荷が少なくなれば廃止できます
- しかし一般廃棄物の最終処分場の廃止はたったの約2% (国内施設数1,689/廃止30)

今後はさらなる懸念も？

- 災害廃棄物への対応が進む中、処分したことが無いごみにどう対処する？
- 埋立地の大型化が進む中、ごみ処理の広域化で更なる長期化の恐れも？

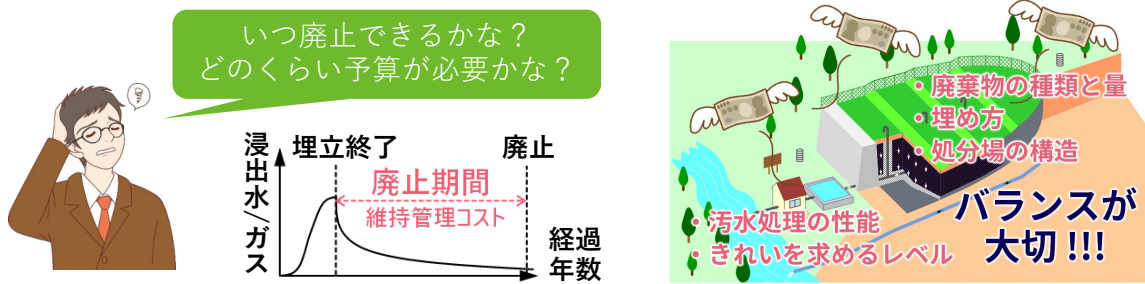


図1 廃棄物最終処分場の維持管理コストと影響要因

2. 研究者と実務者の連携強化

研究者サイド

- 数値の扱いと表現は大変得意
- 理論的な分析に基づいて、根拠のある将来予測を行える
- 現場の実態には詳しくない

実務者サイド

- 何十年にもわたるデータを保有
- 日々の業務が忙しく、人事異動もあり、詳しいデータ分析が難しい

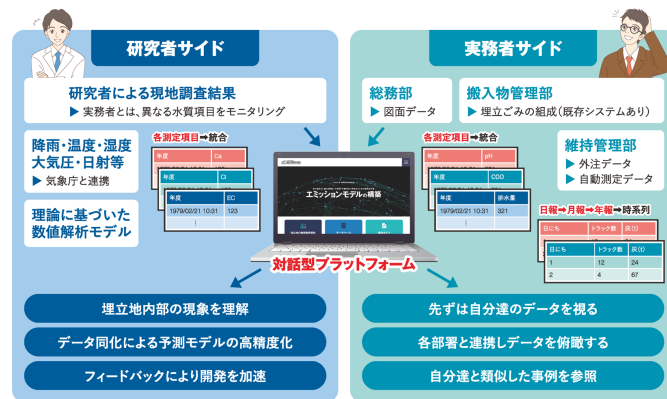


図2 連携によって知識と知見を共有

3. Webアプリの開発と提供によるデータ収集の加速化

実務者側のメリット

- ① 先ずは実務者自身もつデータを見る
それぞれの自治体や一部事務組合のもつ水質データを素早く可視化
担当が変わっても図表書式は維持したままデータを確実に引き継げる
- ② 実務者の関連部署と連携して状況を俯瞰する
焼却施設管理者と処分場管理者がデータを出し合うことで俯瞰した理解
- ③ 全国でデータを集め類似事例を見つける
幅広い機関と連携を促進し知識と経験を共有、問題解決を図る
自分達の最終処分場は標準的な傾向か？特異な傾向か？対処方法の事例は？

研究者側のメリット

- ① 予測モデルの検証と較正のための現場データが得られる
- ② 現場データの類型化を通じて、新規または維持管理中の最終処分場の予測を補完

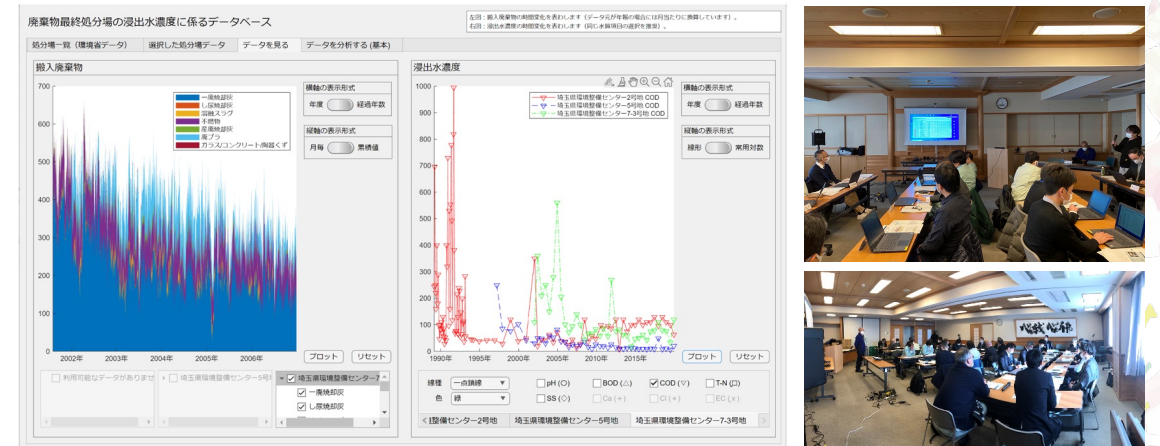


図3 維持管理データの管理・可視化のためのWebアプリと利用説明会の様子
謝辞 環境省・(独)環境再生保全機構「環境研究総合推進費」JPMEERF20213003で実施中です